『あたらしい皮膚科学：第 3 版』のトップページへ

硬変などの低アルブミン血症による Muehrcke's nail，貧血，強皮症，糖尿病などの全身性疾患や砒素などの中毒，白癬や爪甲剥離などによっても白色となる．

b. 爪の形態の異常　abnormal formations of nails

1. 時計皿爪　nail clubbing ★

ばち状指（clubbed finger），ヒポクラテス爪（hippocratic nail）とも呼ばれる．爪甲が全体的に大きくなって時計ガラス状に丸く隆起し，指趾末節が太鼓ばちのように肥大する（**図 19.21**）．指の末端の軟部組織にムチンが沈着するために生じる．慢性の心肺疾患（肺気腫，肺癌，気管支拡張症，先天性心疾患），甲状腺機能亢進症，炎症性腸疾患などで認められる．肥厚性皮膚骨膜症（18 章 p.343 参照）の一症状として家族性に出現することもある．

2. 匙状爪　spoon nail ★

爪甲がスプーン状に陥凹し，爪甲自体も薄くなるものである（**図 19.22**）．手の爪に多い．乳幼児では生理的にみられる．指先に力を掛ける仕事をしている健常人にもみられる．鉄欠乏性貧血や甲状腺疾患で生じるほか，扁平苔癬，乾癬，真菌感染，外傷，化学物質などでもみられることがある．

3. 爪甲剥離症　onycholysis

爪甲が末梢側から剥離してくる状態をいい，剥離をきたすが脱落に至ることはない．爪カンジダ症などの感染症，外傷や慢性的刺激，マニキュア，洗剤など爪甲部皮膚の炎症によるもの，甲状腺機能亢進症や末梢循環障害，薬剤などの全身的な原因によるものが存在する．

図 19.19　緑色の爪（green nail syndrome）

図 19.20　白色の爪（leukonychia）

図 19.21　時計皿爪（nail clubbing）
爪甲全体が時計ガラス状に丸く隆起し，指末節が太鼓ばち状に肥大する．